

＝江戸東京野菜の鳴子ウリを代々伝えていこう＝

○代々伝えていける種(固定種)、伝えていけない種(F1種)

○鳴子ウリの種取り・・・他品種との交雑に注意する

- 1) 完熟した実から種を取る。
 - ・果皮が黄色くなるまで置いておくと種が充実する。
- 2) 果肉を食べて美味しかった実から種をとる。
 - ・固定種はどうしてもバラツキが出るので、良い個体の種を残す。
⇒優良個体の選抜
- 3) ワタと種を一緒に掻きだし、種をビニール袋に入れて一晩放置する。
 - ・一晩放置するとワタが発酵し、種とワタを分けやすくなる。
- 4) 翌日午前中早い時間に水洗いする。
 - ・水洗いする前にザルの中でワタがついて状態の種を良くもむ。
 - ・もみ終わった種を水を入れたボールに移す。
 - ・浮いた種などは捨てる。
 - ・数回、水を替えながら種をもみ洗いする。
 - ・種にぬめりがなくなるまで繰り返す。
- 5) 水洗いが終わったら、ザルに広げて天日で2～3日乾かす。
 - ・一日に2～3回かき混ぜると乾きやすい。
- 6) 天日で乾燥させた後、日陰でしっかり乾かす。
- 7) 乾燥が終わった種の中から大きすぎず小さすぎない種を選び残す。
- 8) 湿気の入らない容器に乾燥材を入れ、保存する。
- 9) 高温にならず、日光が当たらない場所に保存する。
冷蔵庫の中が一番保存し易い。

